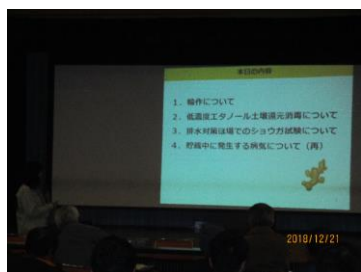


普及活動情勢報告（平成30年1月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

露地ショウガの安定生産に向けた研修会の開催



研修会の様子

12月21日、JA高知市マル朝生姜生産組合が合同研修会を開催し、組合員31名が参加しました。

その中で普及所から、土壌病害対策として輪作や低濃度エタノール土壌還元消毒について、また地下水位制御システム「フォアス」設置ほ場でのショウガ試験結果について、さらに、これから増える貯蔵中に発生する病気について説明をしました。生産者の関心は高く、熱心に耳を傾けてくれ、「低濃度エタノール土壌消毒について、動画で作業を紹介してほしい」、「ドローンを飛ばして病気発生場所を特定したい」などの声が挙がりました。

今後、普及所は、生産組合・JA等と連携して課題解決に向けて、活動支援をしていきます。

農業福祉連携による「就農見学会」を開催



収穫後の調整作業の説明を受ける参加者

1月15日に、高知市生活支援相談センター、社会福祉法人高知市社会福祉協議会、JA高知市労働力確保対策PT会（JA高知市、高知市、普及所）の共催で「就農見学会」を開催し、約20名の参加がありました。普及所は、「農」の窓口として会の計画・運営を支援しました。

見学会では、ミョウガ出荷場でのパック詰め作業や、ミョウガ農家で、収穫後の調整作業について流れを知ってもらうことができました。また、サプライズで農家から簡単でおいしいミョウガ料理の紹介と実演、試食が行われ「おいしい！」と評判でした。

普及所は、関係機関と連携しながら、まずは農作業を知ってもらうところから始めていきたいと思います。

新高ナシの若い担い手がせん定を研修する



せん定の様子

1月11日、高知市針木地区で新高ナシを栽培している30代の生産者他5名を対象に新高ナシの整枝・せん定指導を行いました。

5名の園地を巡り、普及員が整枝・せん定しながら、この枝は切って、この枝は側枝でおく、1、2年枝主体で果実を取るなどを解説しました。その説明をもとに、生産者が整枝・せん定を実践しました。生産者からは「今年の休眠状況は？」、「芽の大きさは？」といった疑問点など熱心に質問がありました。

普及所では、若手の担い手が早期に技術習得できるよう、せん定など実技講習指導を継続して行い、梨の振興を図っていきます。

高知大学版アグリスクールで高知市の農業をPR



高知市の支援体制を説明

1月17日、高知大学物部キャンパスで、2・3年生34名を対象にアグリスクールが開催されました。普及所からは、高知市の就農支援体制や、春野胡瓜部会で進める環境制御技術を紹介しました。また、就農2年目のキュウリ農家に参加してもらい、自身の体験から、会社員では味わえなかった農業の楽しさや、やりがいを熱弁してもらいました。

授業の最後に行った「農業を職業の1つに検討してもいいか」との質問に、6名が挙手してくれ、農業に興味を持ってもらう良い機会になりました。

普及所では、今後も学生向けの就農PRを続け、やる気ある新規就農者の確保・育成に取り組んでいきます。

早くも稲作の準備が始動！ 春野水稻栽培講習会



豊作を願いつつしっかり勉強

1月18日、JA高知県春野営農経済センターにて水稻栽培講習会が行われ、24名の参加がありました。JAから資材や育苗のポイントについて説明があり、普及所からは30年産水稻の概況と昨今の気候に合わせた栽培管理等について情報提供しました。また、稲作の作付状況や今後の意向を把握するため、アンケート調査を行いました。

参加者からは、「昨年苗の根張りが悪かった原因は？」等の質問があり、これから始まる米づくりに向けて意気込んでいました。

今後普及所では、回収したアンケートの結果を農家に返すとともに、農家の意向に沿った試験や情報提供を行っていきます。